

はじめに

宮野遺跡は、京阪電車大和田駅の北東に広がり、従来から、室町時代を中心とする遺物の出土が知られている。今回調査した箇所は、堤根社の西、伝茨田堤の南に隣接した地点（fig. 1・P.L. 5）で、マンション建設工事に伴ない、緊急調査を実施したものである。

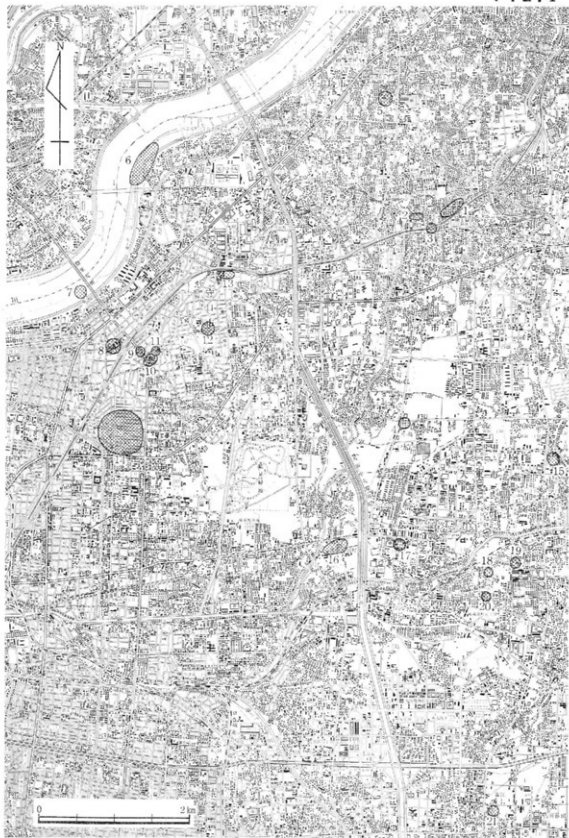
（註1）

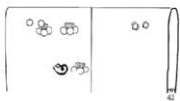
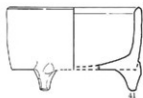
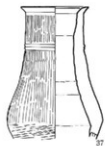
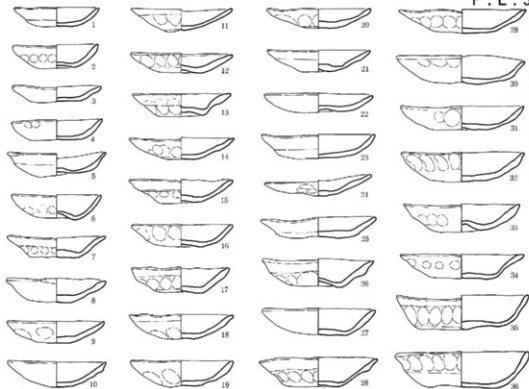
門真市周辺は、縄文時代初頭には、まだ海であり、その後、淀川やその支流による沖積作用で陸地化が進んだ地帯である。しかし中で、調査区周辺は、地山面の標高が比較的高く、陸地化がより早かったと考えられる。かって、大和田駅構内で銅鐸が出土し、遅くとも弥生時代には、陸地化が進んでいた事をうかがわせる。今回調査した宮野遺跡は、その北東約200m～500mにある。古墳時代の土師器・須恵器、平安時代から江戸時代にわたる（土器類土師器・瓦

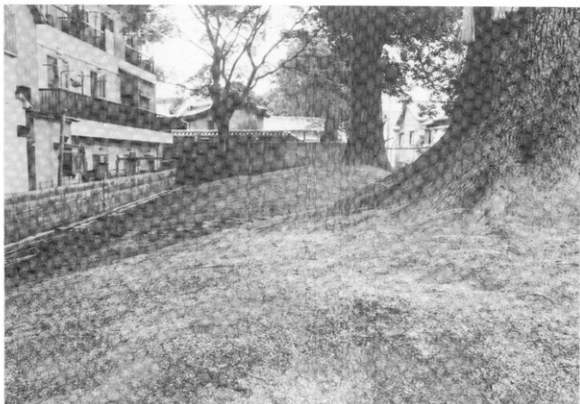


1 伝茨田堤 2 宮野遺跡 3 常称寺遺跡 4 大和田遺跡

fig. 1 調査区位置図



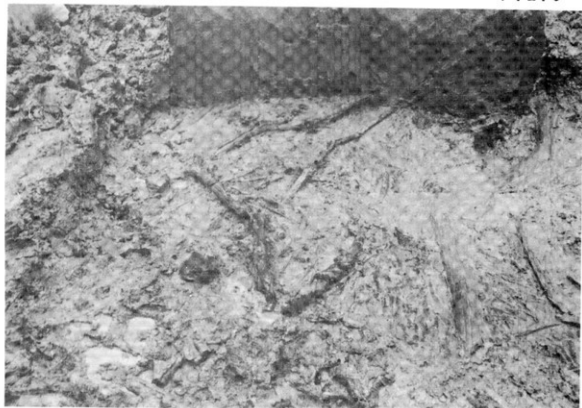




伝茨田堤（東→西）



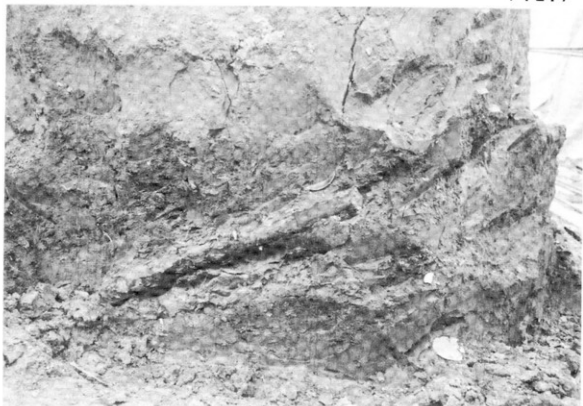
調査区近景（西→東）



木組み遺構平面（北→南）



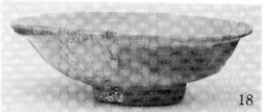
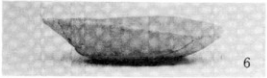
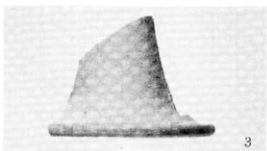
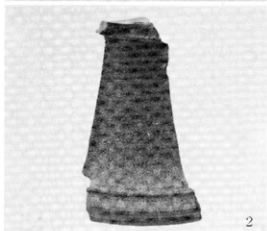
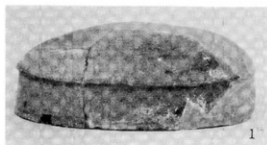
同（南→北）



木組み遺構断面及び遺物出土状態



杭及び遺物出土状態



第1次調査出土遺物

